

■尾形龜之助 詩人。宮沢賢治と同時期に、ほぼ似た生涯を送り、詩集の特異さも通じ、対称的に少ないものの熱烈な読者。

おがたかめのすけ
ピアノ国産化・1900＝

宮城県柴田郡大河原町で、尾形十代之助・ひさの長男に生まれる。

尾形家は多くの土地、家作をもつ県内屈指の素封家で、運送会社や病院などを経営し、莫大な資産を背景に、悠々自適の生活を送る家であった。4年前には、宮沢賢治が、隣の県・岩手県の花巻で、尾形家同様の素封家の長男に生まれている。

日露戦争始・1904＝4歳：喘息の兆候が出て、終生の持病となる。賢治もまた、若い頃に結核に感染して、持病になっている。

日露戦争終・1905＝5歳：

韓国反日暴動1907＝7歳：大河原尋常小学校に入学。

伊藤博文暗殺1909＝9歳：仙台市木町末無町に一家をあげて転居。龜之助、宮城県立師範学校付属尋常小学校に転入学。この仙台の邸宅も、土地の人から“尾形屋敷の尾花お化け”と呼ばれたほど宏荘なものであった。

大逆事件判決1911＝11歳：この頃より、喘息のため学校を欠席しがちとなり、療養のため、鎌倉の外祖母宅に預けられる。

明治天皇没・1912＝12歳：長期欠席のため六年に進級できず、鎌倉尋常小学校に転入学。

第一次大戦始1914＝14歳：逗子開成中学校に入学。

民本主義・1916＝16歳：開成中学校を退学。明治学院中学部に転入学。寮生活を送る。

ロシア革命・1917＝17歳：この年のはじめ仙台に帰り、東北学院普通部(中学校)に転入学。啄木歌集やトルストイ、ドストエフスキー、ツルゲーネフの作品にふれ始め、短歌、詩、絵をはじめ、学内の同人雑誌{東北文学}に作品発表。

本格政党内閣1918＝18歳：

ベルリン条約・1919＝19歳：仙台在住の友人らと、文芸同人誌{FUMIE(踏絵)}(五号まで)創刊。同誌に短歌や詩を発表。地元の芸術家のサークル{仙台芸術倶楽部}に所属して、学業を放棄。

大暴落・・・1920＝20歳：東北学院普通部第五学年を落第し、退学。前記倶楽部を中心とする同人誌{玄土}に短歌を発表。この年、美術学校に入ると称し、しばしば上京。

原敬首相暗殺1921＝21歳：森タケと結婚し、上京して本郷白山下に新居を構えるも、生計は生家の仕送りでまかない、タケの叔父で、未来派美術協会員木下秀一郎を知って、本格的に絵を描くようになり、

水平社結成・1922＝22歳：未来派美術協会員となる。第三回未来派展(三科インデペンデント)に出品し、仙台で個展を開くまでになるが、その間、第一詩集「色ガラスの街」を起稿し、

関東大震災・1923＝23歳：新宿区上落合に転居。近くに住む村山知義を知る。村山らと新興美術家の集団{MAVO}結成に参加し、萩原恭次郎、小野十三郎、戸田達雄、岡本潤らを知る。

護憲三派圧勝1924＝24歳：長男が誕生。詩集{左翼戦線}に「曇天」他三篇を発表。雑誌{マヴォ}を創刊し、連名で、「マヴォ宣言」を発表するも、{マヴォ}がアナーキーな芸術家の拠点となるに従い、遠ざかる。

治安維持法・1925＝25歳：*絵筆を捨てて詩作に専念し、第一詩集「色ガラスの街」を刊行。高村光太郎、草野心平を知る。前年には、宮沢賢治が詩集「春と修羅」を出版しているがともに、ほとんど評価されなかった。

円本時代始・1926＝26歳：長男が誕生し、世田谷太子堂に転居。随筆雑誌{月曜}を創刊(六号まで)。編輯発行人となる。この年から数年、{詩神}{銅鑼}{太平洋詩人}などに多数の作品、随筆を発表。第二詩集「雨になる朝」を起稿し、

金融恐慌・・・1927＝27歳：「話(小説)～あるいは小さな運動場」という佳品も発表、

共産党事件・1928＝28歳：大鹿卓らと{全詩人連合}の結成に参加。同誌創刊号に随筆「早春雑記」、詩「恋愛後記」を発表。タケと離婚し、世田谷駒沢で、女流詩人芳本優と同棲。のち、結婚するが、なお、生計は生家の仕送り、

世界恐慌・・・1929＝29歳：第二詩集「雨になる朝」を刊行。伊藤信吉、野口米次郎、木山捷平らを知る。

海軍軍縮条約1930＝30歳：*{詩神}に「無形国へ」を発表後、第三詩集「障子のある家」を刊行、その序文で、肉親知友に訣別を告げ、餓死自殺すべく、家具一切を売り払い、妻優および年下の詩友矢橋丈吉、小森盛を連れて、上諏訪へ赴くも帰京し、根津八垣町に借間、

満州事変・・・1931＝31歳：*呼応するように、宮沢賢治は死を覚悟して遺書をつくり、手帳に「雨ニモマケズ」を書きつける。

五一五事件・1932＝32歳：次男茜彦が誕生。生家に促されて、仙台に帰り、市内木町の生家の持家の一軒に住む。

国際連盟脱退1933＝33歳：三男黄が誕生。賢治が死去し、追悼会に、草野心平、吉田一穂と出席したのが唯一の接点になった。

帝人疑獄事件1934＝34歳：次女溪が誕生。

芥川直木賞始1935＝35歳：*{歷程}創刊号に、詩「庭園設計図案(或る忘備帖)」を発表し、同人となる。

二二六事件・1936＝36歳：四男乗が誕生。生家の財政が一気に悪化したため、仙台市役所税務課に臨時雇として勤め始めるが、

日中戦争始・1937＝37歳：

日米開戦・・・1941＝41歳：*妻優が三度目の家出をし、持病の喘息もふたたび悪化した上、痔病、尿道結核症、腎臓炎に悩まされ、生家は膨大な借財でますます逼迫、

・・・1942＝42歳：*持家を売却して、単身下宿屋の一室に移ったが、喘息がさらに悪化、{歷程}に、矜持と絶望を表現する「大キナ戦」を発表後、長年の無頼の生活もあって全身衰弱、道路でうずくまっているところを役所の同僚に発見されて、下宿に運ばれ、翌日、優と父が見舞いに訪れたが、父が医者と呼ばれに行き、優が子供の世話に戻った間に、だれにもみとられず、没した。